

## 平成 29 年度 第 1 回伊勢市産業支援センター運営協議会結果概要

- 1 日 時：平成 29 年 7 月 25 日（火）10：00～12：00
- 2 場 所：伊勢市産業支援センター 研修室
- 3 出席者：委員 12 名  
事務局 商工労政課：課長、南係長、西村  
産業支援センター：澤村センター長、中村事業責任者、  
土屋理事
- 4 欠席者：3 名（原委員、牛場委員、平生委員）
- 5 概 要：美濃委員長により進行。内容は以下のとおり。  
議題  
(1) 平成 28 年度事業結果について  
(2) 平成 28 年度事業報告について  
産業支援センター担当より資料に基づき説明。

### ○主な意見等

- ・ 産業支援センターの事業継承セミナー、企業セミナーなど他市町から来る人にとってはとても魅力的なことであるが、そういった情報をほとんど耳にしたことがない。伊勢市産業支援センターを知ってもらえるよう、アナウンスの方法に工夫が必要である。伝統工芸支援について、講座の受講者は毎年同じ人なのか、新しく受講する人が居て、広がりがあるのか。  
→ 取り組み技術的に同じ人が受講されることもあるが、新しい人も数名受講している。昨年度からの成果として講座を受けた人がステップアップして、企業準備を行うなど、事業化に向けた取り組みが行われているので、少しずつではあるが効果が見えてきている。
- ・ 三重大学の電気電子工学科と機械工学科に関しては安定して、伊勢市へ就職活動に来られているが、他の学科についても同様に伊勢市へ足を運べるようにしたい。
- ・ 企業相談を受けた後、産業支援センターから連絡を行うなどフォローアップはできているか。また、相談に対してのカルテなどは作成しているか。  
→ 相談を受けたら、度重ね相談を行うが、それに加えて月一回の企業勉強会に参加頂いたり、そのほか、訪問型の支援も行なっている。カルテは作成しており、月に 1 回伊勢市と産業支援センターで事業報告会を行い、情報共有をしている。
- ・ 3 年生の 7 月はどの企業にを受けるか悩んでいるところであるので、それに至るまでの 1、2 年生の間に地元企業を知ってから 3 年生に臨むことが良いのではないか。生徒はあまり地元企業について詳しくないので、なるべく情報のミスマツ

チを避けるべく、地元企業説明会やインターンシップなど様々な支援をお願いしたい。

- ・就職担当の先生が企業を知るということは当然であるが、進学担当の先生が企業を知ることが重要になってくるのでは。もし余裕があれば、進学校の就職担当でない先生にも企業を知るきっかけを作って頂きたい。進学するにしても、工学部と理学部ではその後の就職先が大きく異なるので、就職担当でない先生が社会を知ることが重要になってくる。
- ・20年ほど前、補助金を受けた後が大変で、申請をやめていたが、20年後、熱心な補助金の案内が半年間続いたので、試しに申請してみると、スムーズで補助金に対しての考え方が変わった。熱心に説得するような支援員が居れば、頑固な経営者でも揺らぐのではないか。
- ・産業支援センターでアンケートを実施しているようだが、このことに関して何かまとめたものはあるのか。何を求められているのか。  
→毎年1回市内企業を対象にアンケートを実施しているが、販路の拡大や人材育成に関する意見が多く、最近では、人手不足ということもあり、採用したくてもなかなか採用できず、跡取りや技術継承などを心配する声が増えてきている。
- ・企業家支援室は来年度になると、利用者はなくなるのか。  
→現状のままであると0件だが、入居相談は2件受けている。
- ・今年が入居3年目で、今年度で新しい事務所に移り費用がかかることから、ビジネス的に厳しい。そのような中で同じような施設に入っている人の話を聞いていると、今年入居10年目で、2年ごとに家賃が上がっていくといった柔軟な考え方の制度があった。また、パーティーをとって、5つの部屋の内1つを広くしたら、使いやすかったのではないか。そういった柔軟な考え方ができれば、よりよくなるのでは。
- ・伊勢春慶の教室と河崎の春慶とでタイアップしていければいいのではないか。木工講座を行っていると聞いているが、機械が古いとも聞いている。  
→機械について、昨年度伊勢市と安全基準を確認し、安全は確認できたが、年式が古くまた、大きな機械ということで、資格を持ったものしか扱えない。今後は、あらゆる人が使えるように、貴金属の小物の作成や日曜大工などを行えるコーナーを考えている。春慶に関しては、河崎の方では、職人を育てる方向であり、産業支援センターはその入り口を作っているといった考え方である。
- ・ものづくり企業を支援しているが、現状では、新しく企業するのはサービス業、廃業するのは建設業が多い。ものづくり業自体が活性化するような取り組みを行って頂きたい。
- ICTのセミナーなど現在のトレンドに乗ったセミナーを開催することで、新たな事業をスタートさせることができると考えている。

- ・雇用に関して、同じ自動車産業でも職種が様々である、現状、学生は地元企業をほとんど知らない。学生が知れば、進路の幅が広がるのではないか。
  - ・産業支援センターの今後の目標を教えてください。
- 大学などで県外へ出て行っても帰って来られるような仕組みのできるセンターにしていきたい。
- ・産業支援センターの事業について、何に重点を置いてやっていくのかを決めたほうがいい。必要な人のところへ必要なことをやっていく方が、良いのではないか。
  - ・例えば、伊勢の企業の機械を買うとき、補助金を買手だけに与えるのではなく、売り手側にも与えてはどうか。
  - ・最近、新聞を取っていない人が増えてきたので、広報にも掲載していけばいいのでは。
- 広報等の掲載も考えている。必要としているひとにどのように届けるのか日々、議論を行っている。
- ・地元企業からどういう人材が欲しいか、産業支援センターを通して、教えて頂ければ。

#### その他

- ・商工労政課担当より伊勢市の取組事業を報告。